

地下水調査(地盤沈下調査)(H7～)

現況と課題

- ① 筑後・佐賀平野には、有明粘土層と呼ばれる極めて軟弱な粘土層が厚く堆積。
地下水位の低下による圧密沈下を生じやすく、広範な範囲で地盤沈下が発生。
- ② このため、昭和60年4月に「筑後・佐賀平野地盤沈下防止等対策要綱」が閣議決定され、国は要綱に基づく施策（揚水規制、水源転換事業等）を積極的に推進。
- ③ 各般の地盤沈下防止施策により地盤沈下は沈静しつつあるが、平成6年の干ばつの際には白石地区を中心に広範囲で地盤沈下が発生。
- ④ 地下水から地表水への水源転換に伴い、白石地区では地盤沈下が沈静化。近年は、地下水位上昇による農地等への影響の検証も必要になってきている。



地下水位、地盤沈下及び農業用地下水利用を継続して監視・把握し、
かんがい排水事業の効果、地下水位上昇の影響を検証。

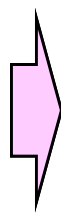
調査内容

①地盤沈下・地下水位の監視

→地下水位・地盤沈下量の観測、関係機関データ収集

②水源転換事業地区での効果把握

→地下水利用の減少状況、地下水位上昇の影響等



成果の活用

①地盤沈下の監視

②水源転換事業の効果確認



地盤沈下防止等対策
要綱の推進・評価

地盤沈下の状況

佐賀県白石町の観測所(新白石C-2)では、地盤沈下防止対策事業の進捗に伴って地下水位が上昇。特に国営筑後川下流白石平野土地改良事業による嘉瀬川ダムからの通水開始(平成24年6月)以降は、夏期の地下水取水に伴う水位低下も認められなくなり、地盤沈下の進行も沈静化している。

